

# 都中P通信

No.35

発行 平成26年10月 東京都公立中学校PTA協議会 会長 田谷 克裕



## ＜全都中学校地区PTA連合会 会長会＞～語ろうPTA・話そう互いの情報を～

日時：平成26年9月9日(火) 場所：御成門中学校1階コミュニティルーム (参加者28名)

報告者：派遣理事 加納京子

### 田谷克裕(都中P会長)

都道府県P連の加盟率は全国的にはほぼ100%ですが、東京都はそうは行きません。われわれは、活動や考え方を日々、色々な形で発信していますが、皆さんが都中Pに望んでいることとの間に差があるのかもしれない。今日のような会を通して、都中Pとしても、自分たちが何をすべきか模索して行きたいと思います。



### ★都中Pを通して、都教委とのつながりを★

『平成25年度都教委への要望書』の中で、『スクール・ワークの導入』について、子どもたちの貧困対策として大幅増員の法制化・予算化を政府が発表。

『学校司書の全校配置』に向けても、学校図書館法を改正する法律案が6/20可決。都の施策への反映が期待されるところです。また、都中Pは、都教委より依頼を受けて『都立高校入試 調査・改善委員会』に委員を派遣し、採点の適正化について保護者からの意見を発信しており、委員から報告がありました(都中P通信No.33参照)。

### ★当日話題が集中した2つのテーマ★

#### ～公立中学校と私立中学校 どちら?～

**目黒区**：区立小学校から区立中学校への進学率が半分位なので、小の保護者から「区立中学校には期待していません」とか「連携はどうですかね?」と言われてしまう。区立中学校をもっと魅力的なものにしたいという思いが区教委に伝わらない。

**文京区**：半分私立。区教委も問題視しているが、落ちて公立に行ったら「楽しい」と子どもたちが言う。盲目的に私立の方がいいと思い込んでいる感があり、公立中学校の良さをもっとアピールして行こうとしている。

#### ～P連組織は小中一緒? それとも別々?～

**小中一緒**：**調布市**：60年近くの歴史があり、設立時から、小中一緒。小Pの経験を活かして中PでP連役員として活躍する人が多く、合計数年P連活動をするのが普通だったが、近年減少。小中の連携が取れて良いが、難しい問題もあり、中学だけの都中Pを脱退したのも、それが原因かも。

**小中別々**：**荒川区**：今年度、小中の連合を分けた。小は安心安全、中は進路と関心事が違い、要望がまとまらない。連合体と小中別々の行事があり、分けられると動員日数も減らせて、単Pの活動に時間が割ける。

### ★この会に向けて行ったアンケートより★ ～各地区P連の自慢を教えてください!!～

**多摩市**：親としてできること、単Pではできないこととして高校説明会を開催。P連で委員研修会。

**板橋区**：区教育長への要望書で、会長たちの教育行政に対する理解を深めている。

**足立区**：ソフトボール、バレーボール大会。小中の上位4校が対戦という形で連携。

**港区**：親子クラシックコンサート。中学生にクラシックコンサートの聴き方やクイズ。全校の生徒・保護者向け「携帯電話・SNSに関するアンケート」に99%の回答。

**台東区**：進路フェア実施。

**町田市**：成人式会場で卒業年に書いた「5年後の自分への手紙」返却。担任からのメッセージや写真で飾る「お祝いメッセージ」で新成人を迎えている。

**八王子市**：科学ソカール。駅伝大会。パワーアップ研修。

**渋谷区**：おやじの会を「親児の会」と命名して活動。一つの行事に的を絞った「ワジャットホース」隊

**調布市**：小中全校でソフトボール大会。バドミントンが盛んで、第七中は都大会ベスト4常連。中学生のための「進路フェア」を開催。

#### ～都教委に要望したいこととしてこんなご意見を頂きました～

- 教員が生徒と接する時間の確保
- 部活、外部指導員の手当増
- 部活都大会と修学旅行の日程重複対策
- ケータ・マホの都パールの使用規制
- 35人学級の2年・3年への延長
- スクールカウンセラーの勤務日数増
- 体育館・特別教室へのIT設置
- 講演会の複数会場・日程での開催

### ★来年度に向けて、出席者の感想より★

同じ課題を抱えている連合同士の分科会を設置し、そこからの報告を都中P全体の課題とするなど提案があった。

\*今回未加盟地区である渋谷区、目黒区、調布市からP連会長さんが出席され、「他区のことを知ると自分の環境がわかるということでこういう交流は大事だと思う。」等の感想をいただきました。

## ★東京都いじめ問題対策連絡協議会（第1回）報告★

日時：平成26年10月3日（金） 場所：東京都庁第一本庁舎25階115会議室

都中P会長 田谷克裕

### 【協議会の開催に当たり】

比留間教育長から「いじめの問題は学校ばかりでなく広く各方面と連携を取りたい」と挨拶を頂いた。引き続き委員の紹介、学識経験者・教育庁・警視庁・教育委員会教育長・公立幼小中高並びに私立小中の学校長・公立小中高のPTA・弁護士会・医師会・臨床心理士・保護司会・民生児童委員と、各関係方面の代表者が集まった。

次に、事務局より本会規則の説明、その後、会長の選出。これは学識経験者から大阪市立大学名誉教授の森田洋司氏が選出された。その後「東京都におけるいじめの防止策等の対策」について説明があった。

### 【各方面のいじめの防止等の取り組みの現状と課題について報告】

まず、公立学校長からは、未然防止に力を入れている。また、アンケート調査を実施して早期発見に努める。しかし、インターネットやスマホの問題もあり、校外での問題の対応が難しい。また私立学校長からは、保護者が卒業生と言うケースも多く教員との結びつきが強い。個人面談等で情報を収集し未然防止に努めている。

教育委員会教育長の代表からは、いじめの無い風土作り、生徒の環境の見える化(教室の窓を透明にする等)。先生が一人で問題を抱え込まないようにサポートチームを作る。生徒会でシンポジウムを実施して、生徒間からいじめをなくすように努める。

公立小中高のPTAからは、先生方のご努力は良く分かった。さらに、保護者の問題もあると思う。家庭における教育力向上に努めていきたい。また特別支援学校でも、いじめがある、この点も考えてほしい。

さらに弁護士会からは、それぞれの弁護士会で相談室を設ける、いじめ予防授業の開催を実施。医師会からは、小児科で受診される際のいじめによる症状の早期発見に努める。臨床心理士からは、いじめの子の家庭が崩壊しているケース多い。子供は家庭で辛い思いをしている。保護司会からは、いじめの子の保護観察を担当、いじめの予防活動をしている。民生児童委員からは、午前8時にゴミ出して通学の子どもの様子を見る。午後3時に買い物等で放課後の子どもの様子を見ると言った活動をしている。以上の報告があった。

### 【まとめ】

東京都教育庁指導部長より、都内2200校の担当者の指導やスクールカウンセラーの全校面接を実施しているが、これが形骸化して、魂の無いものにならないように心がけていきたい等の話があった。今後は、これらの機関及び団体の連携・課題及び改善の方策について協議されることになる。

## ★★★★ ご案内 ★★★★★

【平成26年度東京都教育委員会委託事業・東京都中学校リーダー研修会】

日時：平成26年11月16日(日)14:00~16:30

場所：港区立青山中学校1階ホール



### 「より良い社会人を育成する家庭教育」 ～PTAを活性化させ、家庭の教育力を高めることで、 公立学校の学力をレベルアップしよう～

講師：独立行政法人日本学生支援機構理事長で、本年3月より  
東京都の教育委員も務める遠藤勝裕氏

公益社団法人経済同友会「学校と企業・経営者の交流活動推進委員会」委員長を経て、現在は「教育問題委員会」副委員長を務める遠藤先生は、教育活動支援として、東京都や被災地などの中学校・高等学校で「これからの社会で求められる力と教育のあり方」等のテーマで出前授業をなさっています。そんな、遠藤先生から、「社会人としての基礎を培う家庭教育」についてお話いただきます。

**ぜひ、みなさんの学校の校長先生や副校長先生もお誘いください。**

★★★★今月の一言「やる気はあるか」★★★★  
ほとんどすべての人間は、  
もっこれ以上アイデアを考えるのは  
不可能だということまで行きつき、  
そこでやる気をなくしてしまふ。  
勝負はそこからだというのに……

トーマス・エジソンの言葉



## ★保険制度のご案内★ セイフティプラン24【中途加入が出来ます!!】

都中Pが厚生事業として運用している会員向け団体保険。個人会員ごとに加入となります。犯罪被害にも対応しており、東京都の「犯罪被害者等支援を進める会議」においても、他保険ではあまりない被害事故補償(交通事故含む)を打ち出した保険として高い評価を得ています。加入・お問い合わせは都中Pまで。E-mail: [jpta@tokyo-jpta.org](mailto:jpta@tokyo-jpta.org)

